

第1章 調査の背景と目的

1. 背景

太陽光、風力、地熱といった自然の力を利用する再生可能エネルギーは、地球に優しい電力や動力として、また、地域資源の有効活用と関連する産業の振興への期待から、国、地方自治体、企業、NPO などによる利活用方法の検討や技術開発がされてきた。

そうした中、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災においては、東北地方の多くの地域で数日にわたり電力の確保が困難となる事態が発生しただけでなく、東京電力福島第一原子力発電所の事故により電力の供給能力が急激に減少したことで、関東地方でも計画停電が実施されたことなどから、未開発の多様なエネルギー源の重要性が改めて認識され、再生可能エネルギーに対する社会的な関心が高まっている。

これまでも、東京島しょ地域（以下、「島しょ地域」という。）では、その立地条件・環境条件から再生可能エネルギーの導入の可能性が高いと考えられ、八丈町における地熱発電や風力発電、大島町、御蔵島村における太陽光発電など取り組みが行われてきた。自然環境が多く残る島しょ地域において、環境に配慮した循環型の持続可能なまちづくりは必須であり、その資産を有効活用した島の振興を考えていく必要がある。

2. 目的

島しょ地域の送電線は、新島と式根島間の海底ケーブルを除き、各町村で物理的に完結しているため、電力の需要と供給が把握しやすく、島内で供給された電力を島内で消費する「閉じられた環境」における循環型の再生可能エネルギーの導入を検討することが可能である。

そこで本調査は、再生可能エネルギーの特徴、観光などの地域産業、地域住民との関係性、島しょ地域の持つ物理的特性などに着目し、島の豊かな自然環境をどのようにエネルギー源として活用し、地域づくりに結び付けていくかについて検討した。

島しょ地域では、再生可能エネルギーの導入に対し、離島という立地条件や豊かな自然環境との両立、地域産業への影響などの課題を抱えている。そのような課題について、どうすれば離島というハンディキャップを克服することができるか、自然と共生しながら再生可能エネルギーを導入することができるか、多様な主体による推進体制を構築することができるかについて、具体的なヒントを提示し、再生可能エネルギーを活用した地域づくりを検討する際の参考資料を提供することとした。

【再生可能エネルギーの定義】

再生可能エネルギーとは、「エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律」で「エネルギー源として永続的に利用することができる」と認められるもの」として、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱その他の自然界に存する熱、バイオマスが規定されている。

今回の調査では、再生可能エネルギーを「エネルギー源として永続的に利用することができる」と認められるもの」に加え、「太陽光、風力、水力などをエネルギー源として発電した電力」もしくは「太陽光、風力、水力などから作られた電気」をも含めた概念として定義し、使用する。